

船の科学館で実験教室を開催しました。

東京都品川区の「船の科学館」では、毎年夏休み、中学生以下を対象とした「海の学び舎 わくわくキッズパーク」が開催されています。毎週土・日曜日や祝日に、海に関わりのあるさまざまなテーマの特別体験プログラムが実施されていますが、塩と暮らしを結ぶ運動でも、その一環として、海と関わりの深い塩をテーマに、8月5日（日）、「お塩の実験教室」を開催しました。

当日は、午前と午後の2回、それぞれ定員20名を先着順に受け付けましたが、2回とも、暑い中、時間前から大勢の方に並んでいただき、どちらも満席でした。小学生を中心に、幼稚園・保育園児から中学生まで、幅広い年齢層の皆さんに参加いただきました。

実験教室では、後ろで保護者の方々が見守る中、クイズと実験を交えて塩の性質や塩と暮らしの関わりについてお伝えしました。「塩の結晶は何色？」というクイズでは、「透明」という正解に、驚きの声が上がりました。また「冬に道路が凍らないように撒くものは？」のクイズでは、「塩」という答えが、参加者には意外だったようです。

真水と塩水の浮力を比べる実験では、一生懸命に塩を真水に溶かして濃い塩水をつくってもらい、ゴルフボールが浮かぶことを確かめました。また氷点降下を利用して氷を釣る実験では、制限時間内に一つでも多く氷を釣れるよう、皆さんが頑張っていました。うまく釣れると、大きな歓声が上がっていました。

最後に、参加の皆さんには、『塩と暮らしのあれこれBOOK』や、ウチワ、塩飴などをお渡ししました。また、希望者には、塩イルカとの記念撮影もしていただきました。

園児や小学校低学年の参加者には、氷点降下の話などは難しかったかもしれませんが、塩は食べるだけではないこと、食べる以外のところでも生活に密着した大事なものであることは、お伝えできたのではと思います。

